

## 踏 み 跡 < My mountains >

塩原・那須	八方ヶ原と那須岳	No.033
-------	----------	--------

常駐サービスしている、全共連（全国共済農業協同組合連合会）の秋の旅行に招かれて塩原温泉へ出かけたついでに、月曜日も休暇をとり野州の散歩となった。

この後何年か一緒に山歩きをすることになった吉野勝洋君との初めての山行である。

この野州散歩の第一日目、八方ヶ原には彼のほかに女性三人が同行するというデラックスな旅となった。団体旅行につき物の宴会、これが明けた日曜日からが我々の旅の始まり。

昭和39年10月11日

塩原温泉の中会津屋旅館を出発。バスで塩の湯入口まで行き、そこから徒歩。塩の湯を過ぎると段々に道は細くなり、足下の鹿の又川の瀬音も一段と高くなって来る。兩岸の木々の紅葉は今が盛り。

咆哮の滝という幅の広い大きな滝の下で一休み。滝壺のあたりは細かな水滴が虹を描いて、あたかも梢と梢に橋を架けているかのように見える。道はゆるやかな登りとなり、海拔1000mほどの広い草原に飛び出した。八方ヶ原と呼ばれ、夏は放牧でもするのだろうか、だだっ広い草原に柵が長々と連なっている。

昼食と長い休憩の後、枯れ草の乾いた音を聞きながら麓の山形農場へ。

矢板駅で東京へ帰る女性三人と別れて、吉野と二人で下り黒磯行に乗車。秋の早い夕暮れ、あたりはもう暗闇。

黒磯から最終バスで那須湯本へ。湯本でバスを降りると、旨い具合に客引きが寄ってきた。800円ぐらいの宿を要求するとゴルフ場近くの新築の小ぎれいな宿へ案内してくれた。宿に入ったらもう 20:00だった。

昭和39年10月12日

朝宿の窓を開けると、紺碧の秋空に白い煙を上げて茶臼岳が飛び込んできた。中腹以下の雑木林は黄土色に染まり、真の秋の音楽を奏でている。

バスで海拔 1260mの大丸温泉へ、そして歩き出す。カッコー平でロープウェイに乗る人たちとも別れ、鉱山跡の破屋の中を通り抜け、峰の茶屋への登りに入る。

右手に谷を隔てて、「にせ穂高」と呼ばれている朝日岳が前穂の岩稜を思わせる風格で海拔1896mながらデンと構えている。

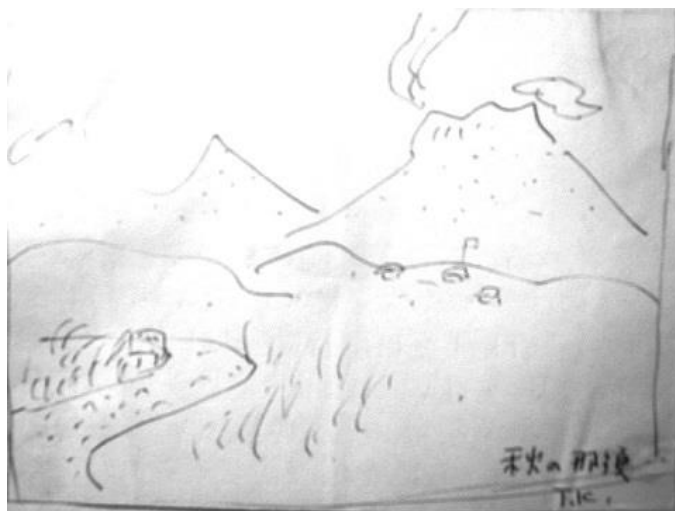
峰の茶屋から硫黄のにおいの混じった湯気の中をわずかな登りで那須岳頂上(1916m)に到着。

秋晴れの空の下、何でも残らず見えたはずだが、残念ながら何もメモを取らなかったため、朝日岳の印象以外は記憶に残っていない。

同じ道を下るのも馬鹿馬鹿しいので、下りはロープウェイの真下の急峻な斜面を下り、大丸温泉に戻った。

この日は山帰りにしては珍しく、日が沈まぬうちに家に帰った。たまにはこういうのんびりした山旅もいいものだ。

以上



(修正・更新:2023年10月)